

2006年6月期第1四半期決算説明会



2005年11月14日

株式会社インターネット総合研究所

(注) 当資料は、当社の2006年6月期第1四半期決算報告を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。この資料のいかなる部分も一切の権利は当社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。また、本資料には2006年6月期の予想にかかわる記載がありますが、これはあくまでも当社の予想であり、その時々状況や多様な要因により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますのでご了承ください。

目 次

- 1 . 第1四半期決算概況
- 2 . IRIグループ各社の状況
- 3 . IRIグループの全体戦略

1. 第1四半期決算概況

1-1 . 2005年6月期第1四半期決算サマリー

(単位:百万円:百万円未満切捨)

		2006年6月期 第1四半期実績	2005年6月期 第1四半期実績	前年同期差	2006年6月期 通期予想	達成率	期初予想
連結	売上高	13,336	3,334	10,002	53,200	25.1%	46,300
	営業利益	514	66	448	2,140	24.0%	1,800
	経常利益	278	106	172	2,180	12.8%	1,650
	当期利益	1,222	48	-1,270	1,270	---	2,200

		2006年6月期 第1四半期実績	2005年6月期 第1四半期実績	前年同期差	2006年6月期 通期予想	達成率	期初予想
単体	売上高	11	72	-61	110	10.3%	110
	営業利益	263	158	-105	760	---	760
	経常利益	416	110	-306	830	---	830
	当期利益	1,231	72	-1,159	1,610	---	520

通期予想は11月10日発表の業績修正予想

1-2. 連結PL概要

(単位:百万円:百万円未満切捨)

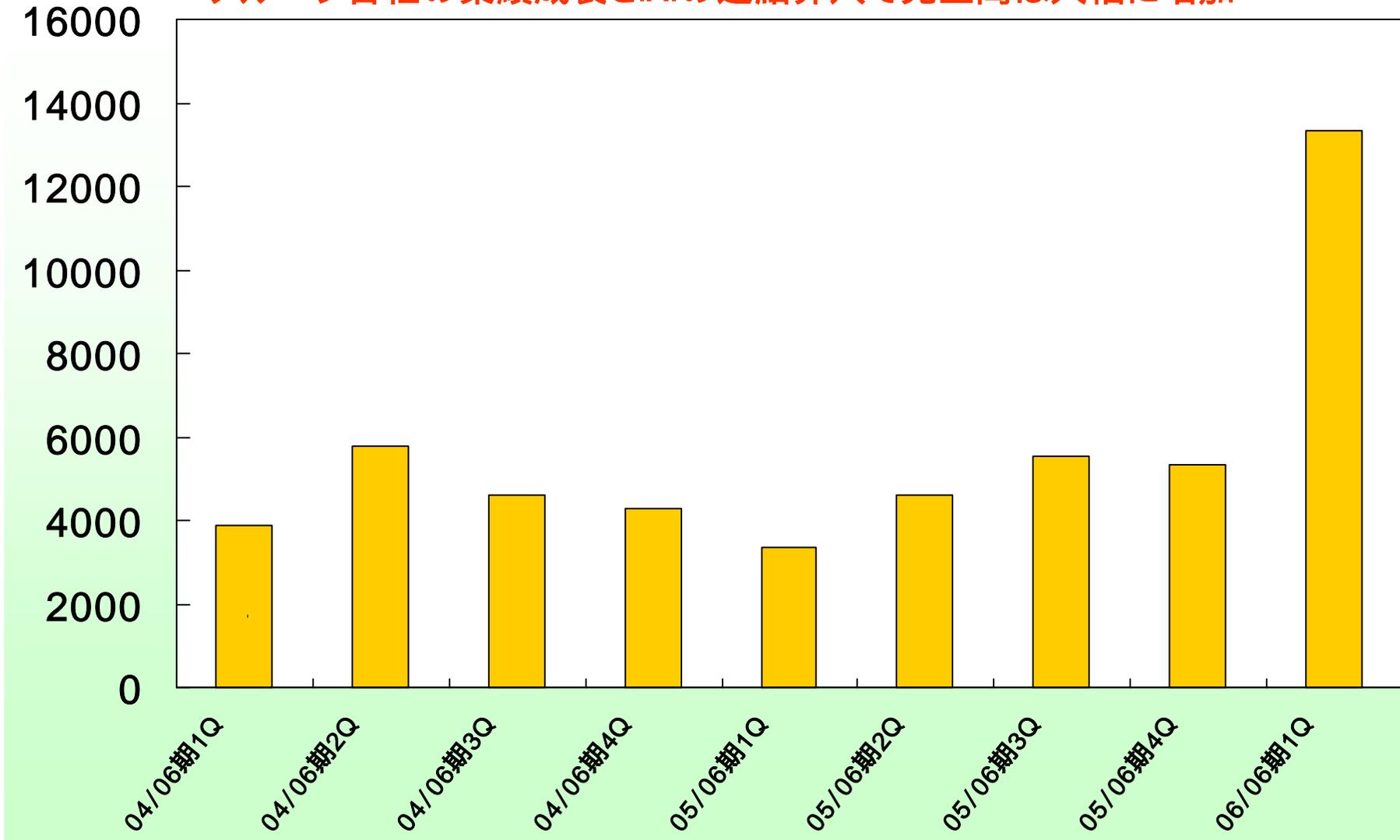
	2005/6月期					2006/6月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	前年同期比
売上高	3,334	4,598	5,538	5,350	18,822	13,336	400%
[IPネットワーク事業]	2,079	3,457	4,247	4,058	13,842	3,614	174%
[IPプラットフォーム事業]	1,252	1,114	1,240	1,241	4,849	1,528	122%
[IPエンタープライジング事業]	-	-	-	-	-	8,092	
[その他事業]	2	27	50	50	130	103	5150%
売上総利益	913	1,058	1,141	1,245	4,359	2,022	221%
売上総利益率	27.4%	23.0%	20.6%	23.3%	23.2%	15.2%	55%
販管費	847	1,010	1,065	980	3,904	1,507	178%
営業利益	66	47	75	264	454	514	779%
経常利益	106	34	183	198	523	278	262%
当期純利益	48	13	40	478	581	1,222	-2546%
暖簾代償却費	144	191	201	166	703	288	200%
減価償却費	109	123	134	145	512	217	199%
暖簾代償却前営業利益	211	239	276	430	1,157	802	380%
EBITDA	320	362	410	576	1,670	1,019	330%

- ・売上高: IPネットワーク事業: 子会社BBTower・IRI-CT・PoDの業績成長
IPプラットフォーム事業: 子会社IRIユビテックの業績成長 / IPエンタープライジング事業: IXIの連結子会社化
- ・売上総利益: 事業拡大により売上総利益は金額ベースで大幅増加。事業構造上、売上総利益率の低いIXIが今期より連結対象となったことで売上総利益率は低下
- ・営業利益: 支払手数料、寄付金により販管費は増加したが、売上拡大に伴い大幅営業増益。利益率も改善
- ・経常利益: 新株発行費、M&A関連費用、組合損失等による営業外費用を吸収し、経常利益も増益
- ・当期利益: IRI-Comの取引先である平成電電の民事再生法手続申請により、貸倒引当繰入・投資有価証券評価損等を特別損失に計上したことにより当期利益は大幅赤字
- ・EBITDA: 営業利益の増益 + M&A暖簾代償却費 (IXI等) の増加により大幅に増加

1-3. 四半期業績推移(売上高)

(単位:百万円)

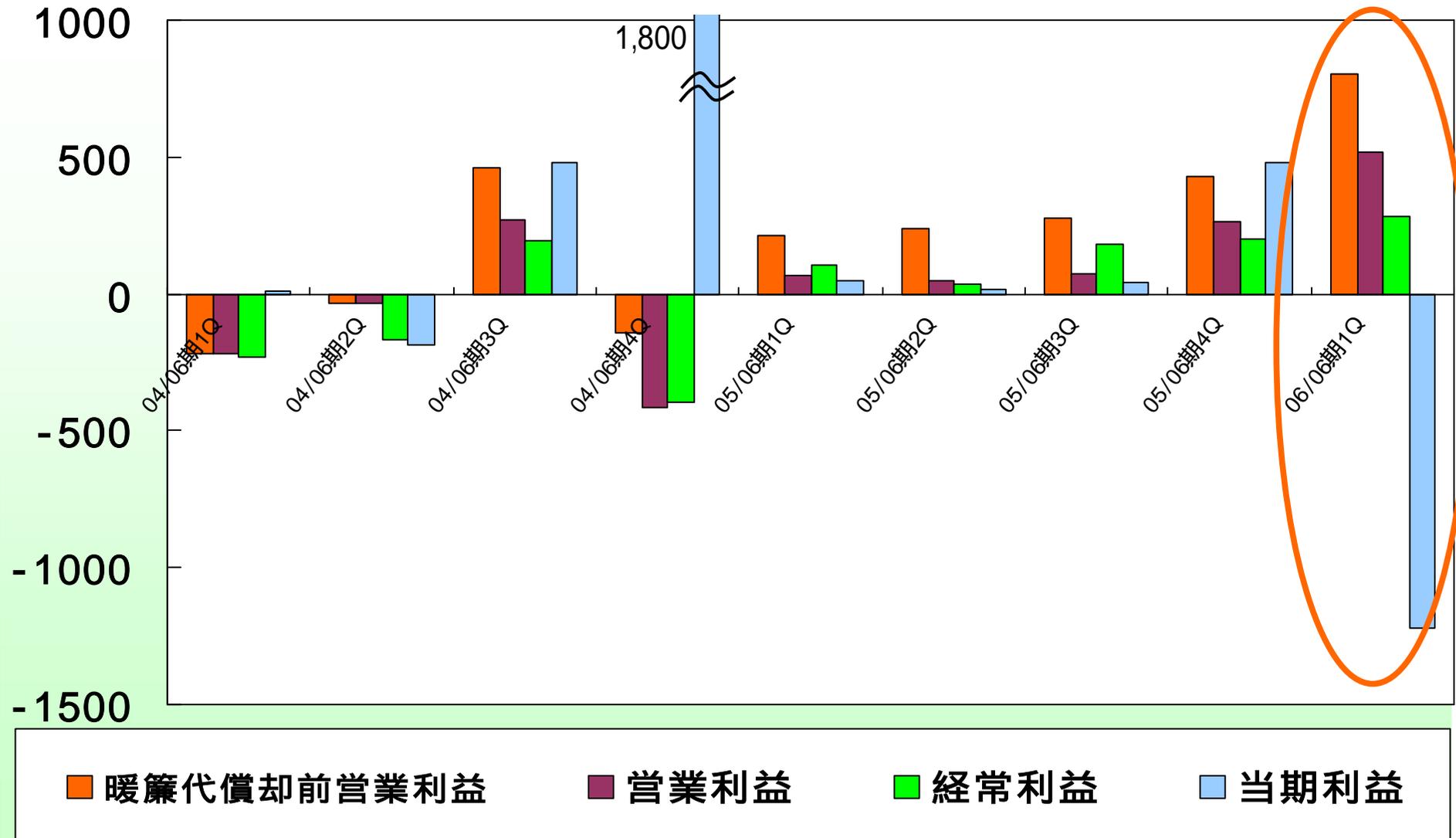
グループ各社の業績成長とIXIの連結算入で売上高は大幅に増加



1-4. 四半期業績推移 (利益)

(単位:百万円)

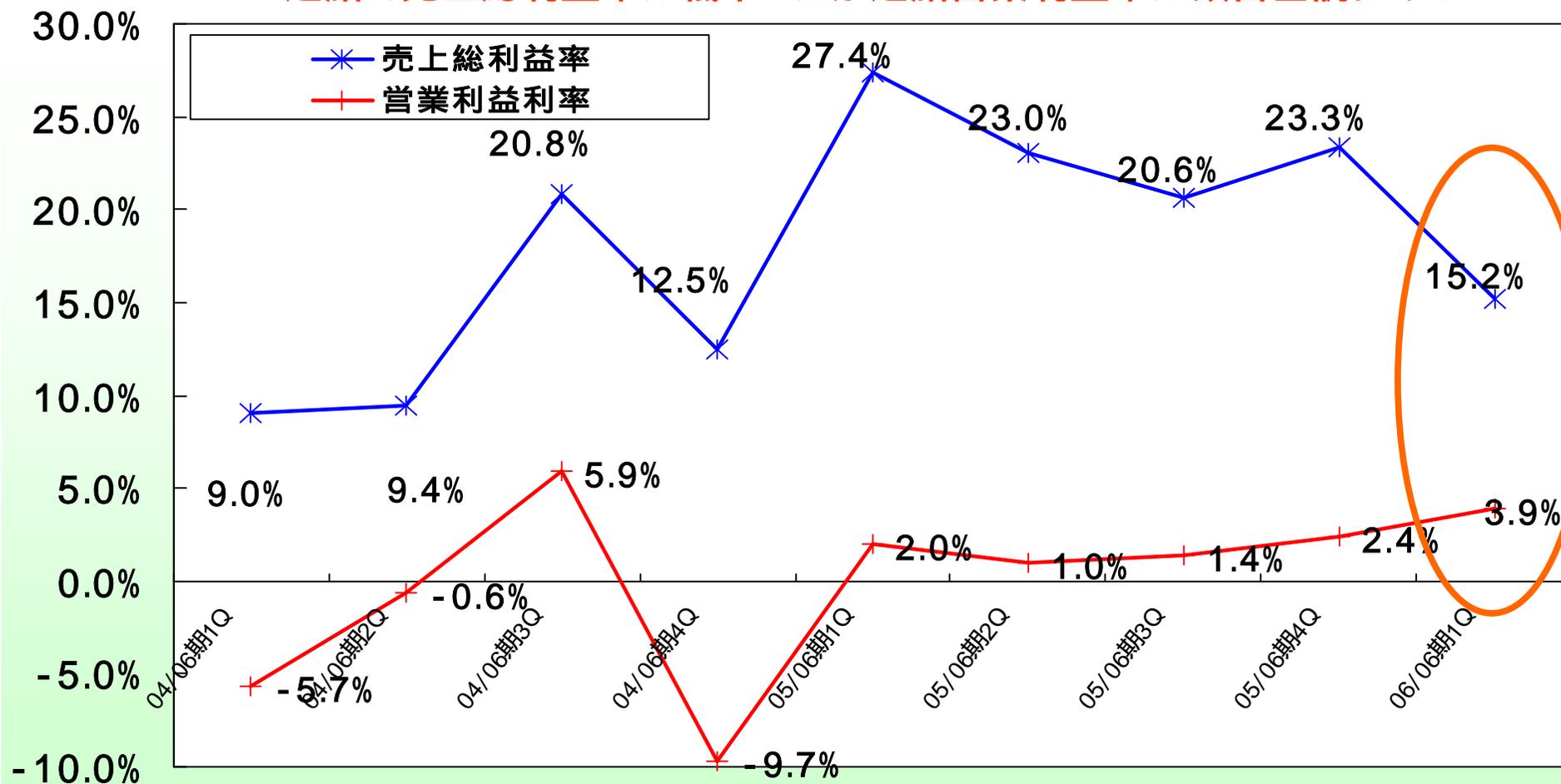
1Qは営業・経常利益ベースで大幅成長。当期利益は特損発生により損失計上



1-5. 四半期業績推移 (利益率)

(単位: 百万円)

IXIの連結で売上総利益率は低下したが連結営業利益率は改善基調にある

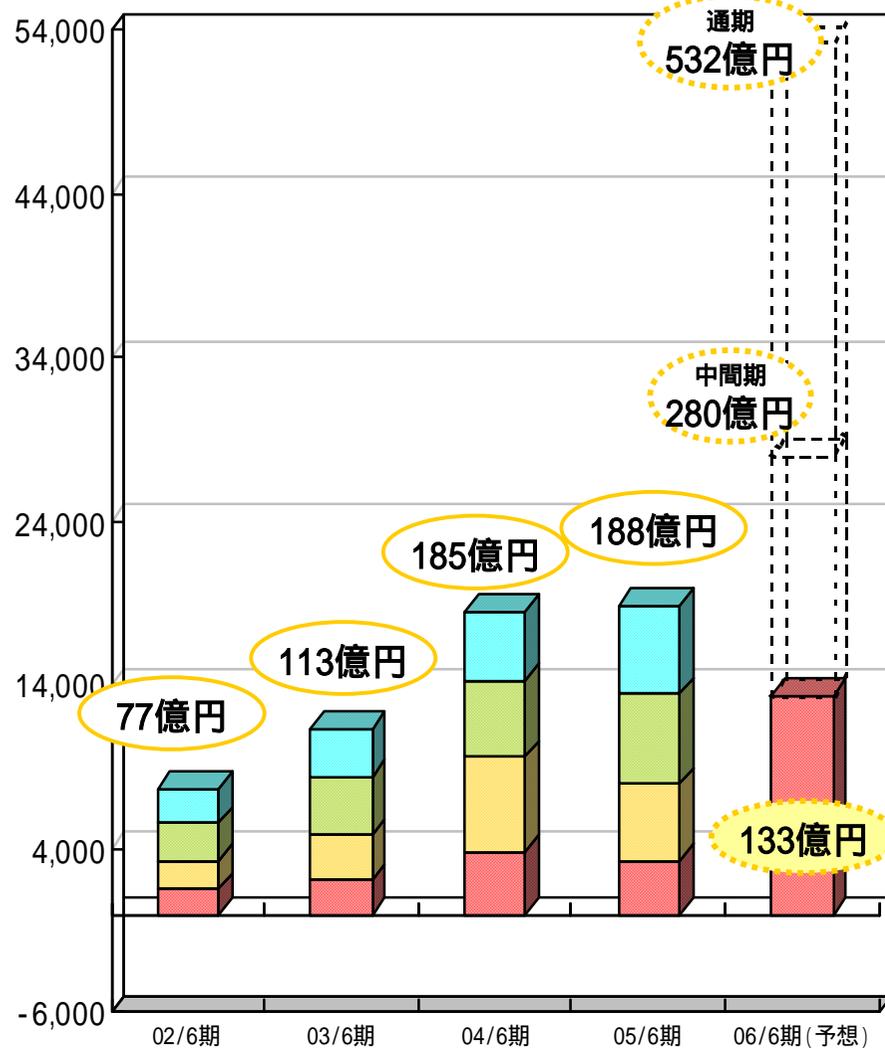


1-6. 四半期業績推移 (通期の積上げ状況)

■ 第1四半期 ■ 第2四半期 ■ 第3四半期 ■ 第4四半期

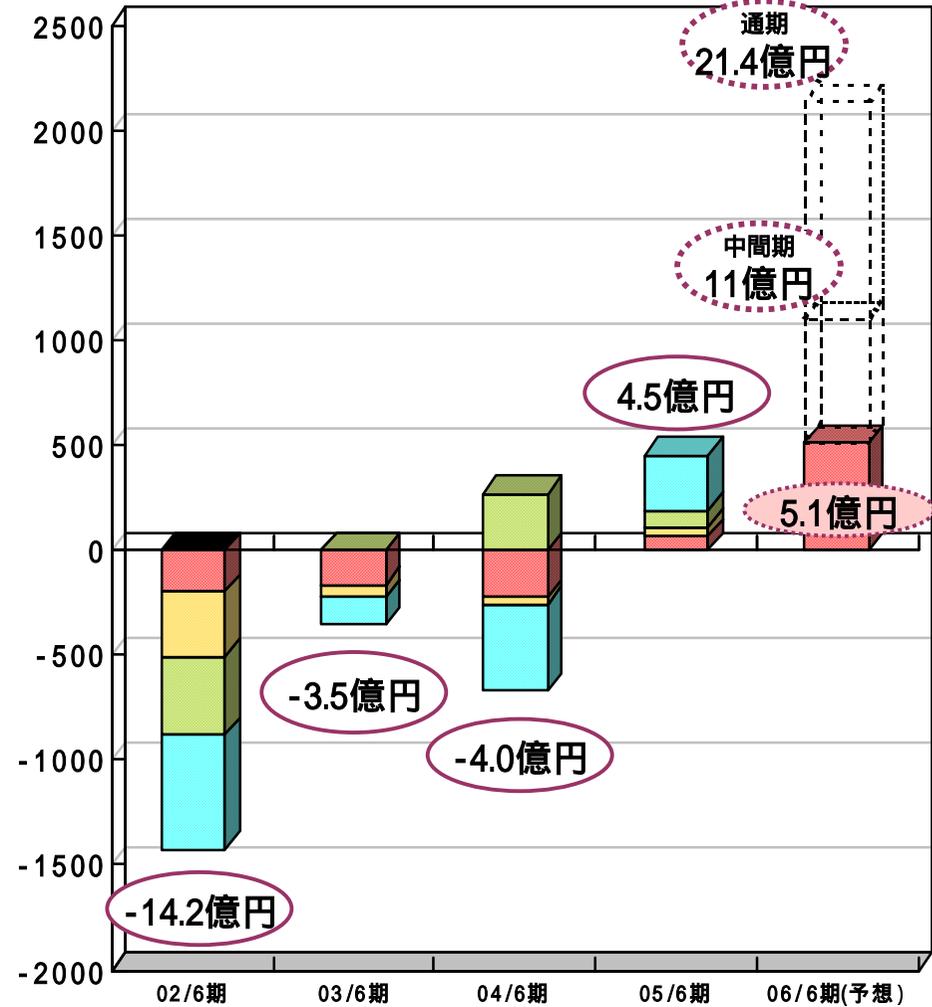
(単位:百万円)

< 四半期別売上高推移 >



(単位:百万円)

< 四半期別営業利益推移 >



1-7. 連結BS概要

(単位:百万円:百万円未満切捨)

(単位:百万円)	2005/6月期				2006/6月期	
	1Q	中間期	3Q	決算期	1Q	前期末比
流動資産	8,699	12,908	13,943	14,431	23,742	164.5%
うち 現金及び預金	3,939	5,637	5,566	6,043	10,204	168.9%
うち 受取手形及び売掛金	4,010	4,083	5,024	4,971	4,537	91.3%
うち 棚卸資産	308	359	461	473	5,674	1842.2%
うち その他の流動資産(含 前払費用)	463	2,832	2,910	2,845	3,347	117.6%
固定資産	7,056	8,739	8,960	9,304	19,771	212.5%
うち 有形固定資産	2,404	2,572	2,596	2,763	4,197	151.9%
うち 無形固定資産	1,663	2,107	2,000	1,810	10,632	587.4%
うち 投資その他資産	2,988	4,059	4,363	4,731	4,941	104.4%
繰延資産	---	16	15	13	28	2
資産合計	15,756	21,664	22,918	23,749	43,541	183.3%
流動負債	4,141	3,833	5,028	5,030	11,083	220.3%
うち 支払手形及び買掛金	2,803	2,333	3,551	3,594	4,372	121.6%
うち 短期借入金	100	243	232	253	3,988	1576.3%
固定負債	523	4,993	4,900	4,815	11,103	230.6%
うち 新株予約権付社債	---	4,500	4,500	4,500	10,490	233.1%
負債合計	4,664	8,826	9,929	9,845	22,187	225.4%
少数株主持分	1,178	2,024	2,126	2,495	6,278	251.6%
資本金	3,866	3,900	3,906	3,920	6,474	165.2%
資本準備金	6,266	7,058	7,065	7,073	9,532	134.8%
利益剰余金	243	162	121	356	881	-247.5%
資本合計	9,913	10,813	10,862	11,408	15,075	152.1%
負債・少数株主持分および資本合計	15,756	21,664	22,918	23,749	43,541	276.3%

- ・流動資産の増加:
 - ・IXIの連結子会社化に伴う増加
 - 現金預金(約28億円)
 - 売掛金(約16億円)
 - 棚卸資産の増加(約50億円)
 - ・平成電電民事再生の影響に伴うIRI Comの売掛金の減少(損失処理約26億円)
 - ・社債発行に伴う現金預金増加
- ・固定資産の増加:
 - ・IXIの連結子会社化に伴う増加
 - 有形固定資産(約13億円)
 - 連結調整勘定(約90億円)
- ・流動負債の増加:
 - ・IXIの連結子会社化に伴う増加
 - 買掛金(約8億円)
 - 短期借入金(約36億円)
- ・固定負債の増加:
 - 新株予約権付社債の純増額(約60億円)
- ・少数株主持分の増加:
 - ・BBTower上場及び株式売却に伴う少数株主の増加(約12億円)
 - ・IXIの連結子会社化(約25億円)
- ・資本金の増加:
 - ・社債転換による増加

1-8. 連結CF概要

(単位:百万円:百万円未満切捨)

(単位:百万円)	2005/6月期		2006/6月期		
	第1四半期末	通期末	第1四半期末	前年同期比 (差引)	前期末比 (差引)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	434	991	238	-672	753
投資活動によるキャッシュ・フロー	447	1,160	8,785	-8,338	-7,625
財務活動によるキャッシュ・フロー	50	4,031	13,161	13,211	9,130
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	1	4	1	3
V 現金及び現金同等物の増加額	60	1,880	4,141	4,201	2,261
現金及び現金同等物の期首残高	4,000	4,000	5,992	1,992	1,992
連結子会社増加による増加額	0	112	0	0	-112
現金及び現金同等物の期末残高	3,940	5,992	10,132	6,192	4,140

・営業CFの減少(前年同期比では増加)

増加要因:営業利益の増加。減価償却費の増加(IXI)、営業権・連結調整勘定の増加(IXI等)。

減少要因:たな卸資産の増加(IXI)

・投資CFの減少

増加要因:子会社株式売却(BBTower、ユビテック)

減少要因:株式取得(IXI、イード、YOZAN等)

・財務CFの増加:

増加要因:新株予約権付社債の発行、少数株主の払込(BBTower公募)

1-9. 第1四半期実績のグループ会社別内訳

子会社事業の好調で営業・経常利益は大幅増益。当期損失は平成電電関連の特損を計上

(単位:百万円:百万円未満四捨五入)

	売上高			営業利益			経常利益			当期利益		
	第1四半期			第1四半期			第1四半期			第1四半期		
	今期	前期	増減	今期	前期	増減	今期	前期	増減	今期	前期	増減
IRI単体	11	72	-61	-264	-158	-106	-416	-110	-306	-1,232	-72	-1,160
BBTower	1,496	987	509	180	177	3	165	171	-6	167	176	-9
IRI-Com	1,792	994	798	-35	-32	-3	-20	-22	3	-4,077	-22	-4,055
IRI-CT	244	134	110	12	10	2	10	10	0	10	10	-0
PoD	227	N/A	N/A	37	N/A	37	37	N/A	N/A	35	N/A	N/A
ユビテック	1,406	1,235	171	233	114	119	234	123	111	135	63	72
ファイバ-テック	136	N/A	136	-56	N/A	-56	-56	N/A	-56	-55	N/A	-55
IXI	8,144	N/A	8,144	554	N/A	554	526	N/A	526	268	N/A	268
IRI-FTA + FT	100	N/A	100	3	N/A	3	3	N/A	3	1	N/A	1
IRI-USA他	38	N/A	38	32	N/A	32	32	N/A	32	32	N/A	32
合計	13,595	3,427	10,168	695	110	585	515	172	343	-4,716	154	-4,870
連結修正	-258	-92	-166	-181	-43	-138	-237	-66	-171	3,493	-106	3,599
連結	13,337	3,334	10,003	515	66	449	278	106	172	-1,223	48	-1,271

売上高 増減要因

- BBTower
- ・IDC事業のラック数増加
- IRI-Com
- ・BBX事業、NI事業の増加
- IXI
- ・1Qより連結子会社化
- ・物流系GIS関連案件が好調
- ・体制強化による営業力向上

営業・経常利益 増減要因

- IRI単体
- ・広告宣伝費、寄付金等の増加(販管費)
- ・資金調達関連費用の増加(営業外費用)
- ユビテック
- ・モバイル・ユビキタス事業好調
- ・採算の良いコンサル案件の増加
- IXI
- ・1Qより連結子会社化
- ・採算性の良い物流系GIS関連案件が好調
- 連結修正
- ・IXI暖簾代の計上

当期利益 増減要因

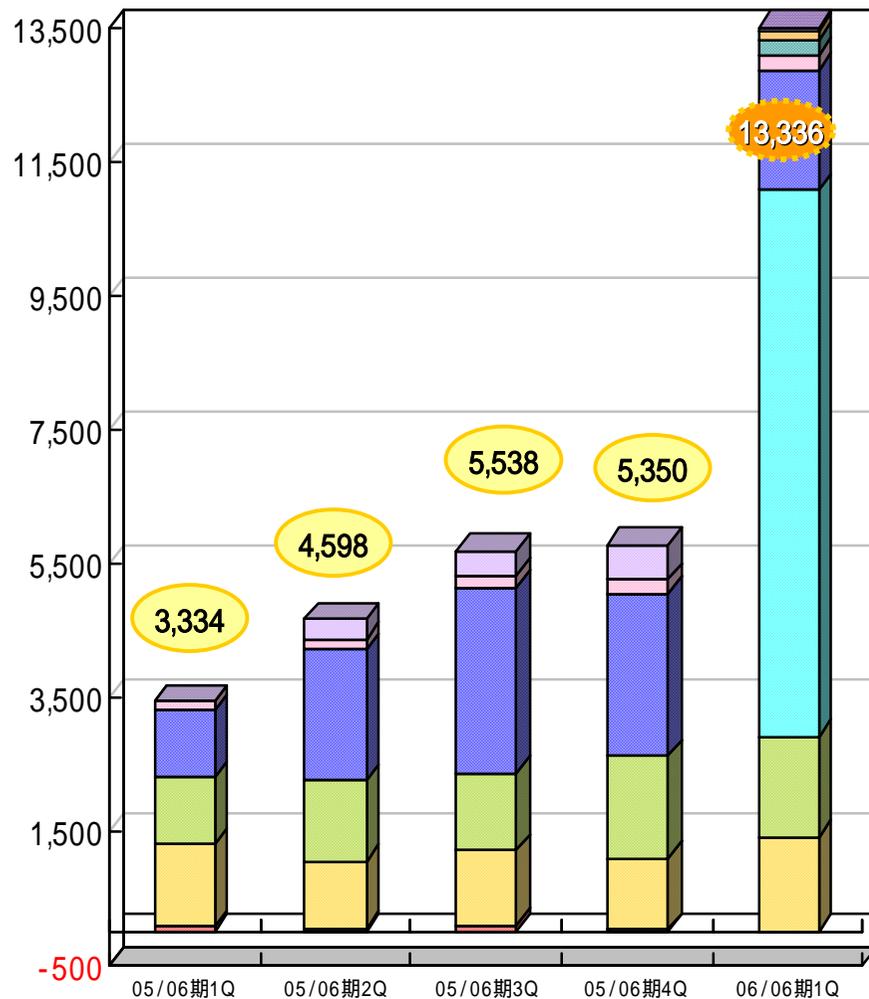
- IRI単体
- ・平成電電関連損失の発生(特別損失)
- 子会社株式評価損失引当金
- IRI-Com
- ・平成電電関連損失の発生(特別損失)
- 関連事業下方修正
- 貸倒引当金/債務保証損失
- 投資有価証券評価損
- 連結修正
- ・平成電電関連の連結処理(連結修正)
- 子会社株式評価損失引当金戻り
- 少数株主損失の増加

1-10. グループ会社別四半期推移 (売上高・営業利益)

■ IRI本体
 ■ IRIユビテック
 ■ BBTower
 ■ IXI
 ■ IRI-Com
 ■ IRI-CT
 ■ PoD
 ■ ファイバーテック
 ■ その他

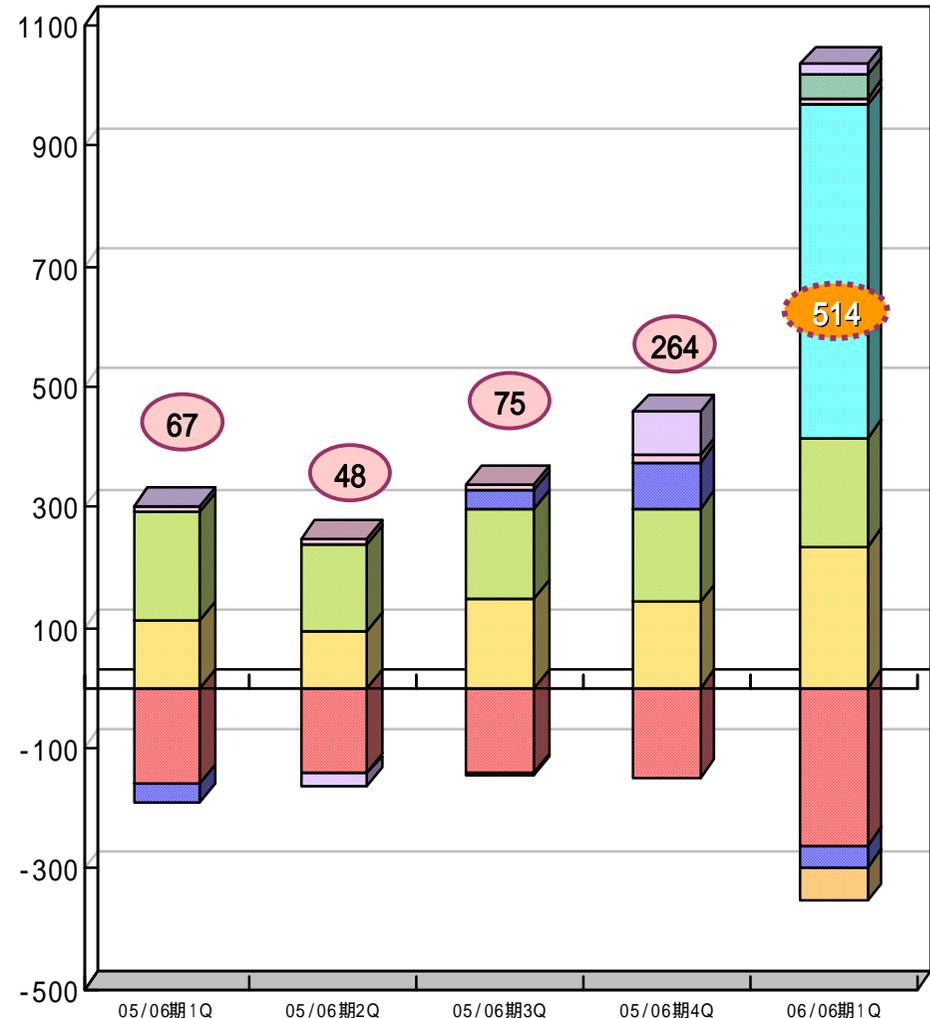
(単位:百万円)

< 会社別売上高推移 >



(単位:百万円)

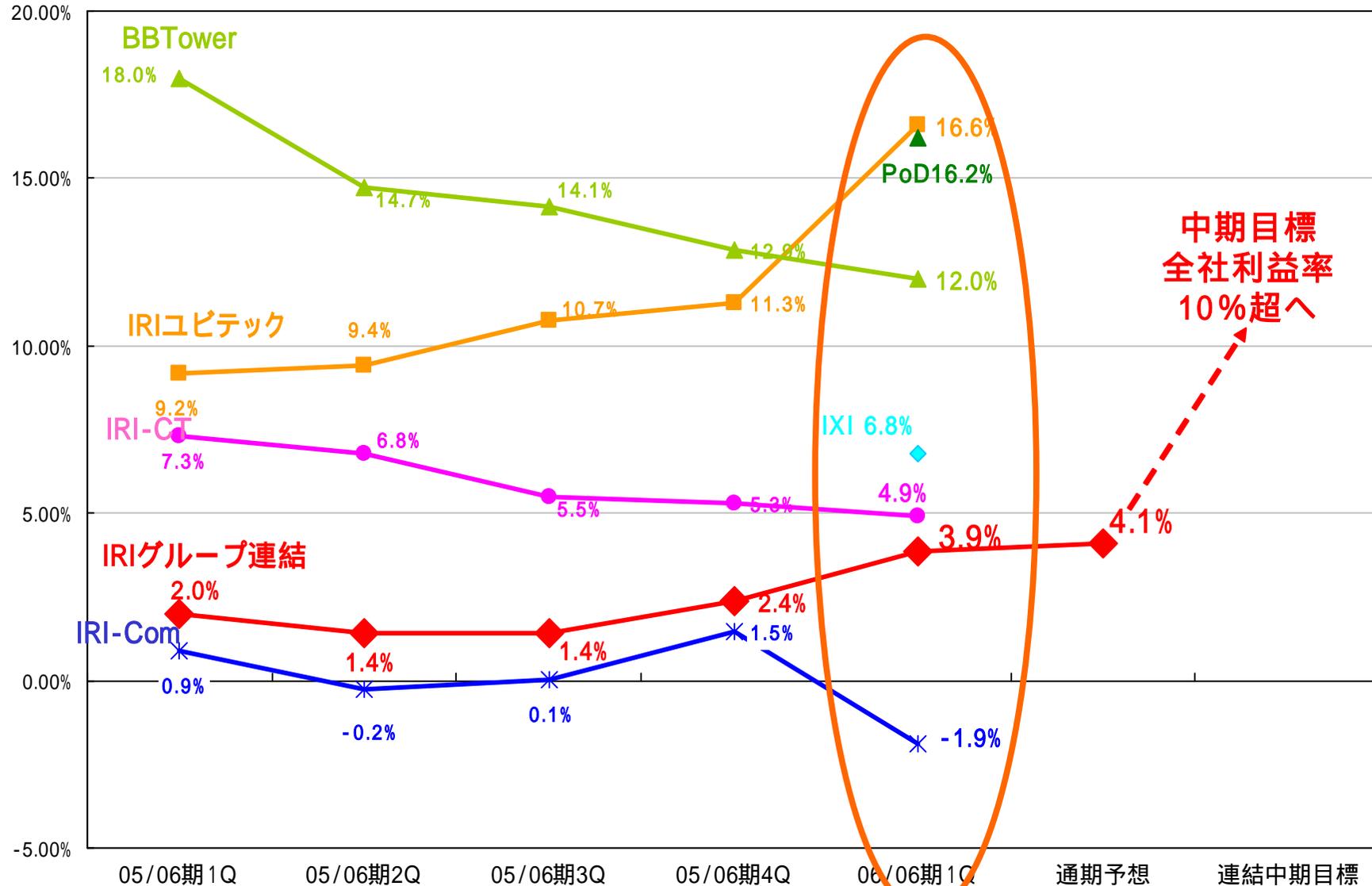
< 会社別営業利益推移 >



() グラフはグループ各社の単純積上げ数値(連結調整前)を表示

1-11. グループ会社別営業利益率の推移

連結営業利益率は前年同期比で1.9ポイント改善



1-12. 2006年6月期予想の修正(売上高・営業利益)

	売上高								対期初増減要因
	中間期予想				通期予想				
	期初	10/13修正	11/10修正	対期初増減	期初	10/13修正	11/10修正	対期初増減	
IRI単体	61	61	61	0	115	115	115	0	
BBTower	3,127	3,127	1,496	-1,631	6,560	6,560	1,496	-5,064	2Qより連結子会社 持分法適用子会社
IRI-Com	3,915	2,727	2,727	-1,188	8,000	4,251	4,251	-3,749	平成電電民事再生法適用による関連事業の下方修正
IRI-CT	436	436	740	304	931	931	1,903	972	イード社買収による売上の増加
PoD	335	335	492	157	699	699	857	158	Gyao関連事業の売上高の増加
ユビテック	2,714	2,714	2,750	36	6,665	6,665	6,665	0	10/24中間期業績修正を反映(モバ・ユビ事業の好調)
ファイバ-テック	329	329	329	0	974	974	974	0	
IXI	13,572	13,572	19,560	5,988	22,532	22,532	37,142	14,610	11/4IXI通期業績修正を反映(GIS関連案件の好調)
IRI-FTA + FT	200	200	200	0	400	400	400	0	
IRI-USA他	4	4	40	36	8	8	44	36	
合計	24,693	23,505	28,395	3,702	46,884	43,135	53,846	6,962	
連結修正	-250	-250	-383	-133	-500	-500	-633	-133	
連結	24,443	23,255	28,012	3,569	46,384	42,635	53,213	6,829	

	営業利益								対期初増減要因
	中間期予想				通期予想				
	期初	10/13修正	11/10修正	対期初増減	期初	10/13修正	11/10修正	対期初増減	
IRI単体	-454	-454	-454	0	-766	-766	-766	0	
BBTower	277	277	180	-98	641	641	180	-462	2Qより連結子会社 持分法適用子会社
IRI-Com	-115	-191	-191	-76	150	-526	-526	-676	平成電電民事再生法適用による関連事業の下方修正
IRI-CT	26	26	26	0	62	62	78	16	イード社買収による利益の増加
PoD	25	25	44	19	55	55	74	19	Gyao関連事業の利益の増加
ユビテック	217	217	300	83	550	550	550	0	10/24中間期業績修正を反映(モバ・ユビ事業の好調)
ファイバ-テック	-103	-103	-103	0	9	9	9	0	
IXI	856	856	1,601	745	1,691	1,691	3,097	1,406	11/4IXI通期業績修正を反映(GIS関連案件の好調)
IRI-FTA + FT	72	72	39	-33	144	144	111	-33	
IRI-USA他	-6	-6	29	35	-12	-12	23	35	
合計	795	719	1,470	675	2,524	1,848	2,829	305	
連結修正合計	-370	-370	-369	1	-687	-687	-686	1	
連結	425	349	1,101	677	1,837	1,161	2,144	307	

IXIの2005年10月～2006年3月における業績予想は、同社が2005年11月4日に発表した2006年3月期業績予想における数値をもとに算出された数値であり、2006年4～6月における業績予想は、同11月4日発表の2006年3月期業績予想における下期予想に2分の1を乗じて算出された数値に基づいております。

IRIユビテックの2006年6月期の業績予想通期の見直しにつきましては、現在精査中であり、判明次第速やかに開示を致します。

BBTowerの株式売却につきましては、売却益が確定していない為、当業績修正に反映しておりません。

1-13. 2006年6月期予想の修正(経常利益・当期利益)

	経常利益								(単位:百万円:百万円未満四捨五入)
	中間期予想				通期予想				
	期初	10/13修正	11/10修正	対期初増減	期初	10/13修正	11/10修正	対期初増減	
IRI単体	-520	-520	-520	0	-828	-828	-828	0	
BBTower	254	254	165	-89	618	618	165	-453	2Qより連結子会社 持分法適用子会社
IRI-Com	-115	-176	-172	-57	150	-505	-502	-652	平成電電民事再生法適用による関連事業の下方修正
IRI-CT	26	26	25	-1	61	61	85	24	イード社買収による利益の増加
PoD	25	25	44	19	55	55	74	19	Gyao関連事業の利益の増加
ユビテック	213	213	300	87	541	541	541	0	10/24中間期業績修正を反映(モバ・ユビ事業の好調)
ファイバーテック	-104	-104	-104	0	7	7	7	0	
IXI	835	835	1,561	726	1,647	1,647	3,028	1,381	11/4IXI通期業績修正を反映(GIS関連案件の好調)
IRI-FTA + FT	72	72	39	-33	144	144	111	-33	
IRI-USA他	-6	-6	29	35	-12	-12	23	35	
合計	680	619	1,366	686	2,383	1,728	2,704	321	
連結修正合計	-396	-396	-337	59	-713	-713	-520	193	BBTower持分法投資益
連結	284	223	1,029	745	1,670	1,015	2,183	513	

	当期利益								対期初増減要因
	中間期予想				通期予想				
	期初	10/13修正	11/10修正	対期初増減	期初	10/13修正	11/10修正	対期初増減	
IRI単体	847	-1,301	-1,301	-2,148	539	-1,609	-1,609	-2,148	平成電電関連(投資有価証券評価損,子会社株式(IRI-Com)評価損)
BBTower	367	367	167	-200	701	701	167	-534	2Qより連結子会社 持分法適用子会社
IRI-Com	-115	-4,241	-4,241	-4,126	150	-4,573	-4,573	-4,723	平成電電関連(関連事業の下方修正、貸倒引当金約、保証引当金、投資有価証券評価損)
IRI-CT	26	26	23	-3	60	60	53	-7	イード社買収による利益の増加
PoD	25	25	39	14	49	49	58	9	Gyao関連事業の利益の増加
ユビテック	121	121	165	44	315	315	315	0	10/24中間期業績修正を反映(モバ・ユビ事業の好調)
ファイバーテック	-104	-104	-104	0	7	7	7	0	
IXI	424	424	821	397	853	853	1,557	704	11/4IXI通期業績修正を反映(GIS関連案件の好調)
IRI-FTA + FT	72	72	37	-35	86	86	51	-35	
IRI-USA他	-6	-6	29	35	-12	-12	23	35	
合計	1,657	-4,617	-4,364	-6,021	2,748	-4,123	-3,951	-6,699	
連結修正合計	317	3,137	3,214	2,897	-508	2,312	2,689	2,717	平成電電関連(子会社IRI-Com株式評価損の戻り、IRI-Com少数株主損失の増加)、BBTower連結 持分法適用子会社変更に伴う連結修正
連結	1,974	-1,480	-1,151	-3,125	2,240	-1,810	-1,262	-3,502	

IXIの2005年10月～2006年3月における業績予想は、同社が2005年11月4日に発表した2006年3月期業績予想における数値をもとに算出された数値であり、2006年4～6月における業績予想は、同11月4日発表の2006年3月期業績予想における下期予想に2分の1を乗じて算出された数値に基づいております。

IRIユビテックの2006年6月期の業績予想通期の見通しにつきましては、現在精査中であり、判明次第速やかに開示を致します。

BBTowerの株式売却につきましては、売却益が確定していない為、当業績修正に反映しておりません。

1 14.取引先の民事再生手続開始の申立ての影響について

グループ連結子会社の株式会社IRIコミュニケーションズ(以下、IRI-Com)の取引先である平成電電株式会社(以下、平成電電)が、平成17年10月3日付で東京地方裁判所に民事再生手続開始の申立てを行ったことに伴い、平成18年6月期(平成17年7月1日～平成18年6月30日)連結並びに単体の業績予想につきまして下記のとおり影響が発生しました。

(通期連結業績予想に対する影響額の内訳)

科目	金額	備考
連結:売上高	3,749百万円	子会社IRI-Comにおいて通信機器の販売等の平成電電向け売上高が今後見込めないこと、及びその他事業への影響を慎重に精査し事業計画の見直しを行う。
連結:営業損失	676百万円	子会社IRI-Comにおいて上記の売上高の減少に伴う利益計画の見直しを行う。
連結:特別損失(貸倒引当金繰入)	2,640百万円	子会社IRI-Comの平成電電に対する売掛金およびその他営業債権について貸倒処理を行う。
連結:特別損失(債務保証損失)	576百万円	IRI-Comが平成電電とリース会社との間のリース契約に関して債務保証を行っていることに伴い当該保証債務に関して引当処理を行う。
連結:特別損失(投資有価証券評価損)	889百万円	平成電電有価証券(IRI-Com保有約800百万円、IRI保有89百万円)について評価損の引当を行う。
連結:少数株主損失	+約700百万円	子会社IRI-Comの少数株主損失の増加
単体:特別損失(投資損失引当金繰入)	2.059百万円	子会社IRI-Com株式について評価損の引当を行う(単体P/Lにのみ影響)。

この業績修正に反映していない事項として、スポンサー企業の出現、事業の継続など平成電電における今後の民事再生手続きの推移によりますが、平成電電から提供を受けているサービスの継続如何によっては、IRI-Comにおいて行っているヴァーチャル・アクセス・サービス事業の継続が困難になり、営業権(平成17年9月末未償却残高約11億円)を償却する可能性があります。

IRI-Comの具体的な再建計画については現在策定中であります。

1-15. 連結グループ:財務ハイライト (第1四半期)

BBTower大証ヘラクレスへ上場

- ・上場日: 2005年8月3日、公募価格550,000円に対し、初値3,030,000円
- ・IRIからの売出し株数: 300株

公開買付けの実施、IXIとの資本及び業務提携

- ・両者が有するIPネットワークソリューションとIPネットワークサービスを提供し、GISエンタープライズ市場を開拓
- ・平成17年8月15日譲渡完了。買付価格: 1株につき、330,000円
- ・買付後の所有株式数 35,254株 (所有割合53.01%)

第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の発行

- ・社債の総額: 11,000,000,000円
- ・転換価額: 当初 176,000円 下限転換価額 88,000円 上限転換価額 228,800円
- ・資金使途: 上記IXI公開買付けによる株式取得
2005年11月4日に全額転換(転換株数90,154株(端株除く))。
これにより11月4日現在の発行済株式総数は474,855.49株

コミットメントライン設定

- ・第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の繰上償還原資を目的に、三井住友銀行をアレンジャーとして締結
- ・総コミット金額: 30億円
- ・コミットメント期間: 平成17年9月30日 ~ 平成18年9月29日

子会社2社、株式分割を発表(BBTower、IRIユビテック)

- ・1株当たりの投資金額を下げ、株式の流動性の向上および投資家層の拡大を図ることを目的
- ・BBTower:
2005年 9月30日時点の株主に対し1株につき5株の割合をもって分割 (効力発生日は2005年11月18日)
- ・IRIユビテック:
2005年10月31日時点の株主に対し1株につき2株の割合をもって分割 (効力発生日は2005年12月20日)

1-16. 連結グループ:財務ハイライト (第1四半期)

株式会社カザアナへと業務・資本提携

- ・Picstel社製品の技術を活用してワイヤレスブロードバンドに対応したフルブラウザ事業に参入
- ・出資額: 9千万円

YOZAN、IRIグループ間における業務・資本提携

- ・次世代ブロードバンド「WiMAX」事業を共同推進
- ・YOZANの発行済株式総数の1.52%を取得し、YOZANへIRIユビテックの発行済株式総数の1.31%を譲渡

IRI-CTの第三者割当増資引受、及びIRI-CTによる株式会社イードの第三者割当増資引受

- ・新株発行数: 4,067株
- ・発行総額: 6億1,005万円
- ・IRI-CTはイードを子会社化
インターネットリサーチ分野での調査パネル規模の拡大、国内外の顧客企業への新しいサービスの提供

2. グループ各社の状況

2-1. 今四半期の連結グループ構成

グループ企業価値の最大化

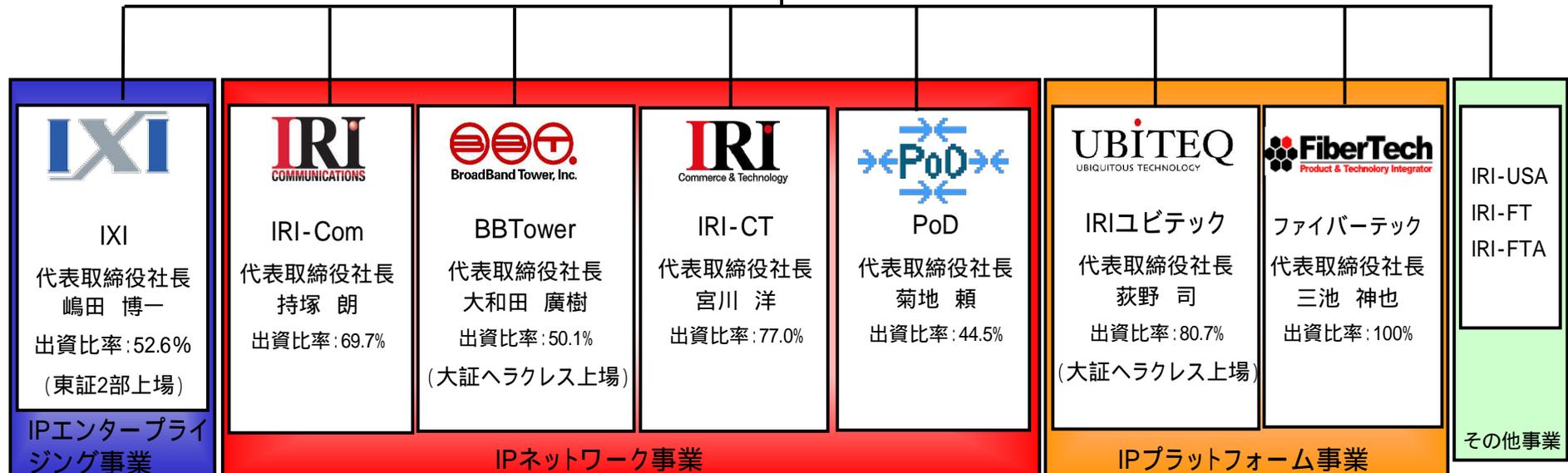
代表取締役所長
 藤原 洋
 (東証マザーズ上場)

- 本社機能
- < 財務機能 >
 - < グループ・ガバナンス機能 >
 - < 横断的な成長戦略の策定機能 >
 - < IPエンタープライジング™事業推進機能 >
 - < M&Aを積極活用した新事業の創出 >

グループ会社の役割を明確化した『連邦的独立経営』によりグループ企業価値の増大を目指す

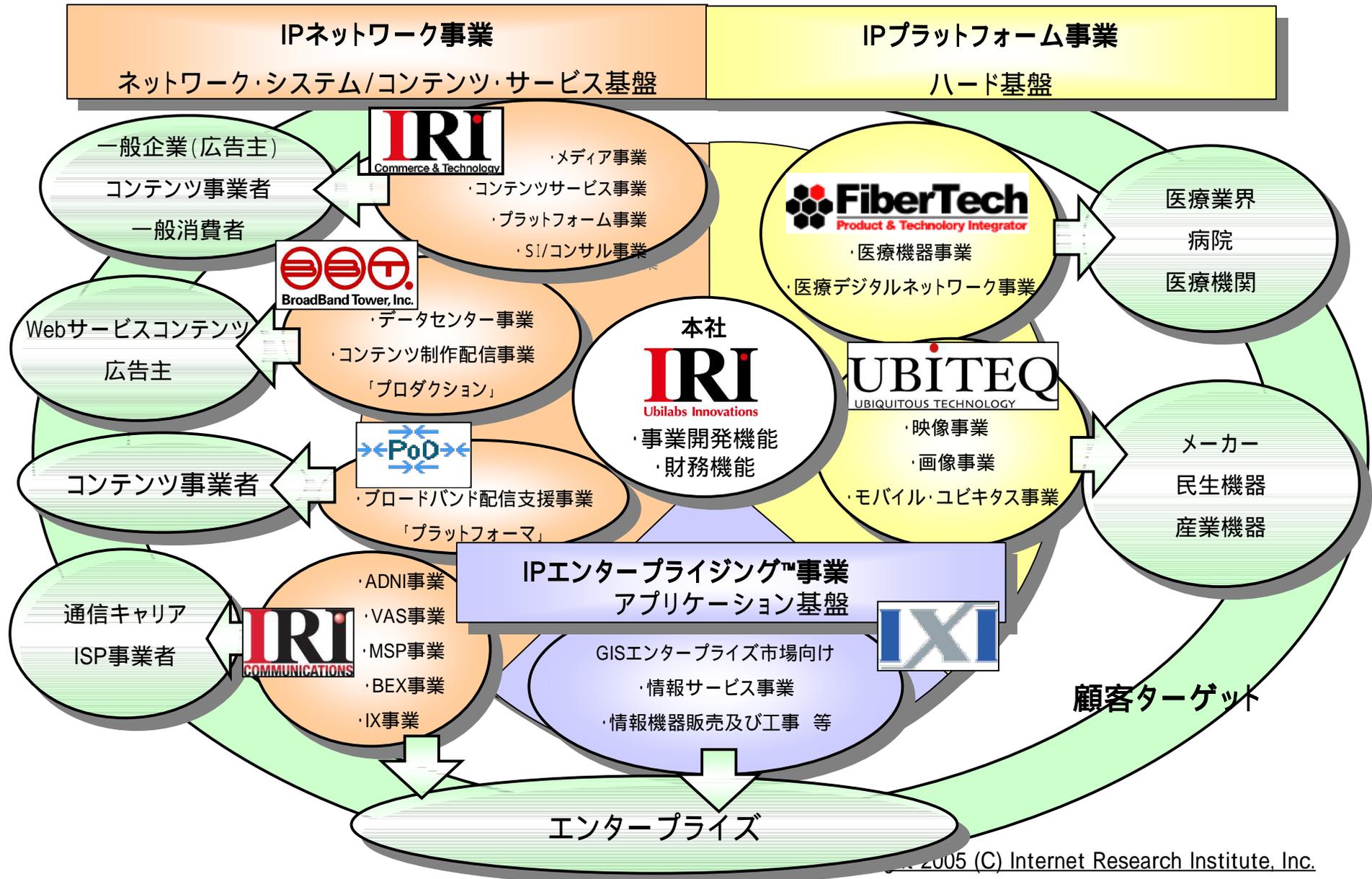
出資比率: 9月末現在

連結子会社群



各グループ子会社は自己資金調達力を強化
 事業環境に即した効果的経営と迅速な意志決定を推進し事業強化を図る

2-2. グループ事業展開



2-3. 株式会社ブロードバンドタワー

～ IPネットワーク事業

2006年6月期1Q実績 売上: 1,496百万円 営業利益: 180百万円



事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 1Q実績
データセンター事業	4,317	5,846	1,371
稼動ラック数	1,287	1,893	1,495
ブロードバンド配信事業	542	713	125
合計	4,860	6,560	1,496

ブロードバンド配信事業

- ・液晶画面付自動販売機を利用した新たなメディアサービスを開始
- ・インターネット上におけるコンテンツを専門に扱うコンテンツ・エージェンシー会社をDAC社等と共に共同設立
- ・(株)シグロが製作する映画作品の配信展開で全面的に業務提携

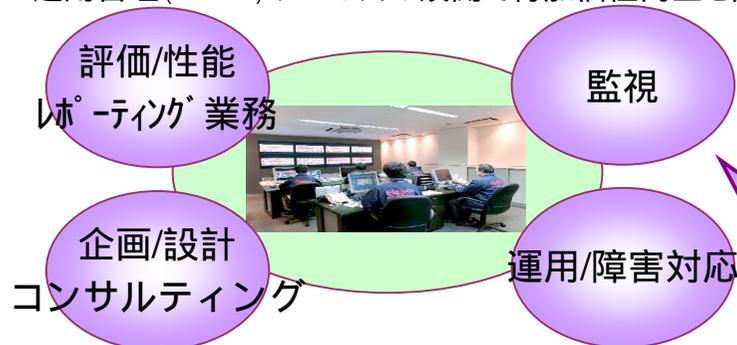
データセンター事業

・インフォリスクマネージ(旧アイティーマネージ)とデータセンターにおける運用管理サービス事業(MSP)において、資本及び業務提携

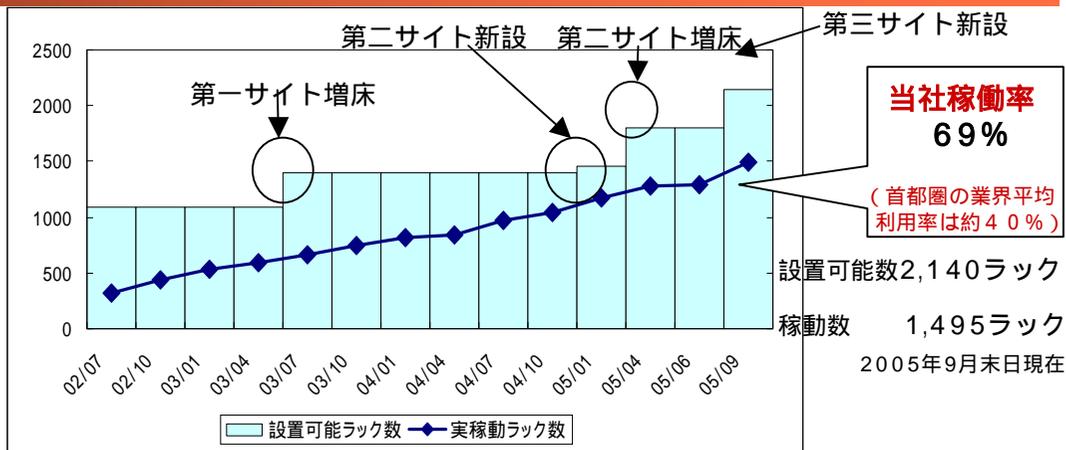
・ソフトバンクIDCとデータセンター事業で販売業務提携

【運用管理(MSP)サービス事業本格展開】

・運用管理(MSP)サービスの展開で付加価値向上を図る



主に上の4業務を受託し顧客に代わって運用。



運用管理(MSP)サービスとはデータセンターサービス利用者のサーバ、ネットワーク、コンテンツ等、システム及びアプリケーションを、円滑にそして安定的に24時間365日運用し稼働させるサービス。

2-4. 株式会社IRIコミュニケーションズ

～ IPネットワーク事業

IRI
Ubilabs Innovations

IRI
COMMUNICATIONS

2006年6月期1Q実績 売上: 1,792百万円 営業損失: 35百万円

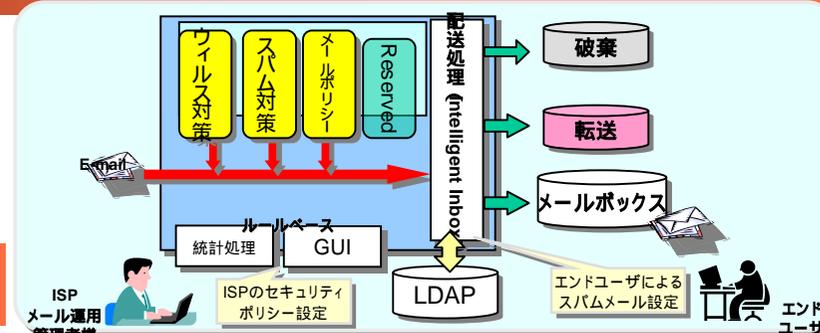
事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 1Q実績
BBX事業	916	1,013	273
VAS事業	1,049	813	200
MSP事業	248	318	71
NI事業	5,714	1,931	1,224
ASP事業	-	171	24
合計	7,929	4,251	1,792

MyAccessサービス

自販機、玩具、防犯器具などへPHS端末を内蔵し、遠隔からの機器操作、カメラで撮影した映像の配信、GPS連携による位置情報の提供など、新サービスの展開に向けて各社と企画検討を開始。

メールASPサービス(Anti-Abuse Mail Service) ファーストユーザ稼働

9月27日にファーストユーザ稼働(現在20,000ID)。2006年末売上1.8億円(見込みID数300,000以上)を目標に営業活動中。インターネットマガジン誌掲載(10月29日)。セミナー(11月10日、28日)を実施し、さらなるプロスペクト獲得を進める。



その他トピック

総合セキュリティサービスSEC110(セック・ワン・テン)サービス開始

MBSD社、SIDC社、セキュアベイル社とともにネットワークセキュリティの総合サービスを提供開始。プレスリリース(10月24日)、日経ビジネス誌掲載(10月28日)、セミナー(11月11日)実施による早期顧客獲得を目指す。

BEX Conferece

ASP型多地点テレビ会議システムBEX Conference、9月26日に野村不動産アーバンネット(株)様32拠点で稼働。

2-5. 株式会社IRIコマース&テクノロジー

～ IPネットワーク事業



2006年6月期1Q実績 売上：244百万円 営業利益：12百万円

事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 1Q実績
メディア・コンテンツ事業	236	310	73
モバイル&コマース事業	113	331	50
プラットフォーム・コンサル事業/その他	351	290	121
(株)イード	-	972	2Qより連結
合計	701	1,903	244

イード子会社化により2QよりIRI-CTへ連結
今期期売上高予想が19億円へ

(株)イードが実施した第三者割当増資をIRI-CTが引き受け、9月30日より、IRI-CTのイードに対する持株比率は67.8%となり子会社化しました。これにより2Qよりイードの業績はIRI-CTへ連結されます。

(株)イードを子会社化 インターネットメディアとリサーチビジネスの融合による全く新しい事業体の構築

インターネットメディアである「RBB TODAY」、「レスポンス」と、市場調査・マーケティング事業のリーディングカンパニーでもある「イード」との相乗効果で、特に近年成長が著しいインターネットリサーチ分野で更なる成長・発展。



● 社名：株式会社イード(IID, Inc.)
設立：1990年10月16日
資本金：500,430,000円
従業員：70名

自動車で培ったデザインマネジメント手法によるコンサルティング
クルマ、ITその他の幅広い分野におけるマーケティングリサーチ、コンサルティング
デザイン性の高い商品の商品企画
デザイン周辺の情報分析、及びデザイン企画、コンセプト企画
デザイン評価・検証、及びデザインクリニック(含む海外)
予測、及び評価手法の開発

「RBB TODAY」「レスポンス」ニュース記事は、国内インターネットユーザーの90%以上に配信



「RBB TODAY」「レスポンス」のニュース記事は、国内の主だったポータルサイトすべてに配信され、国内インターネットユーザーの90%以上に行き渡るほどの影響力を持つほどになりました。



2-6. 株式会社プロデュース・オン・デマンド ~ IPプラットフォーム事業

2006年6月期1Q実績 売上: 227百万円 営業利益: 37百万円



事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 1Q実績
ストリーミング配信事業	446	857	227

USENのGyaOサービス 登録視聴者数が大幅増加 動画配信元年

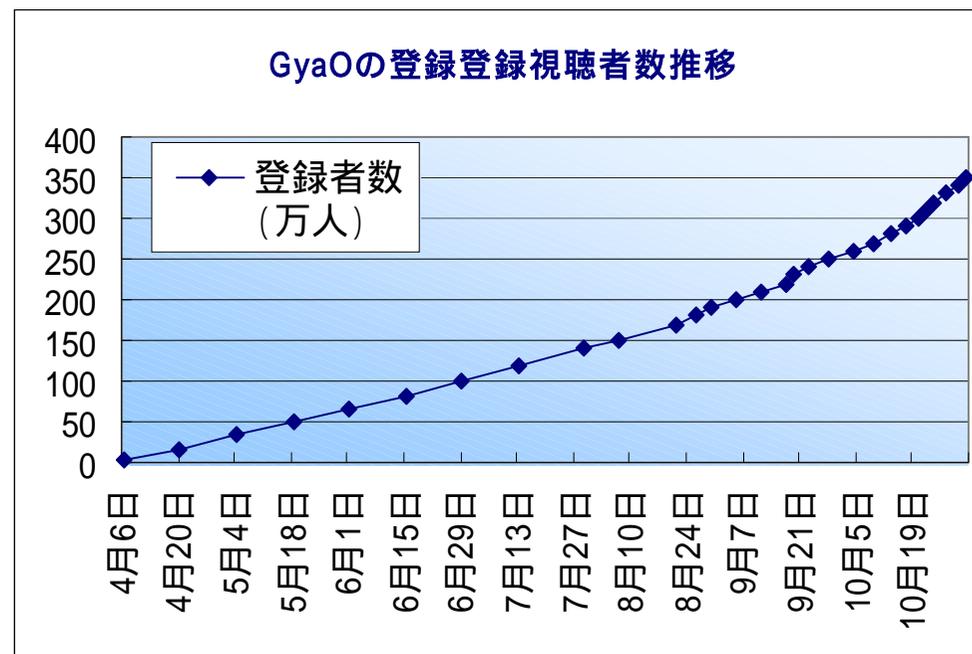
(株)USENの広告モデル型無料動画配信サービス「GyaO」
の動画配信プラットフォームを提供



GyaOは4月25日から本放送開始
11月1日に登録視聴者数が350万人を突破！
最近の増加スピードはますます加速！！

PoDは、技術的事業パートナーとして
GyaOサービスに関して動画配信プラットフォーム
を提供
GyaOの伸びに合わせてPoDの業績も急拡大

民放テレビ各社がネット配信を開始
ソフトバンクグループも無料動画配信事業に
参入表明
今後の市場規模の拡大に期待



2006年6月期1Q実績 売上: 1,406百万円 営業利益: 234百万円

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 1Q実績
映像事業	1,081	947	272
画像事業	2,043	2,960	599
モバイル・ユビキタス事業	1,315	2,248	534
香港現地法人	-	508	-
連結合計	4,441	6,665	1,405

今期1Qを振り返って

モバイル・ユビキタス事業の前年同期比売上高が大幅増となりました。これは、携帯電話の評価業務を順調に受注獲得したことに加え、次世代無線ブロードバンドWiMAX支援事業において、ネットワーク設計および構築のコンサルティング受注が好調だったことが寄与しています。

映像事業においては下記の通り、オリジナル映像エンジンモジュールの開発に成功しましたので今後の拡販に注力致します。画像事業においては医療および生体認証(バイオメトリクス)センシングモジュールの開発に注力致しました。

() 今期通期予想に記載している数値は平成17年8月25日発表の数値であり、平成17年10月24日に発表を致しました中間業績予想数値の修正に伴い、最新の通期予想につきましては現在精査中です。判明次第速やかに開示致します。

フルスペックハイビジョン対応オリジナル映像エンジンモジュール開発！

平成17年7月1日、カール・ツァイス(独)、三井物産、IRIユビテックの3社はリアプロジェクションテレビにおける映像光学モジュールの共同開発を目指し、国内及び海外メーカーに対して供給するための業務提携合意を発表しました。

提携後の共同開発製品、第1弾としてIRIユビテックはフルスペックハイビジョン対応オリジナル映像エンジンモジュールを開発、平成17年10月19日FPD International 2005展において発表を致しました。今後、カール・ツァイスの光学エンジンモジュールと組み合わせるリアプロジェクションテレビ市場へ提供をしていく予定です。



(写真: フルスペックハイビジョン対応映像エンジンモジュール)

この映像エンジンモジュールは、当社独自設計による映像エンジンボードとその機能を最大限に引き出すための専用ファームウェアを搭載しており、リアプロジェクションテレビに限らず、液晶テレビやプラズマテレビへの応用が可能であり、更にプロジェクターにも利用できる共通設計となっているところが最大の特徴です。

2006年6月期1Q実績 売上: 136百万円 営業利益: 54百万円



事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 1Q実績
極細径内視鏡	128	208	61
電子・硬性内視鏡	116	163	14
モニタリングシステム	93	305	38
その他製品	115	298	23
連結合計	452	974	136

血管内視鏡の販売が好調

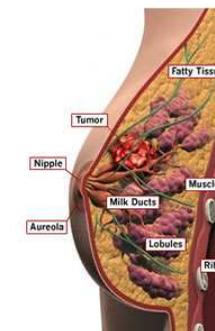
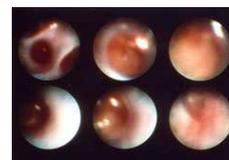
循環器内科領域で再狭窄を起こしにくいステントとしてドラッグエルディングステント(DES)の販売が開始され、それに伴って血管内視鏡の使用量が増加しました。(計画に対して280%の達成率)

住友電工とレーザー診断装置の共同開発契約締結

フォト・ダイナミック・ダイアグノシス(PDD)は癌に特異的に集まる薬剤を患者に投与し、レーザー光でその部位を照射すると特定波長の蛍光を発します。それをモニタリングしどこに癌が存在するかを発見する癌診断です。通常、手術中は可視光を使用していますので癌組織の特定が難しく完全に切除できず再発にいたるケースもあります。この開発製品はどの部分を切除すれば確実に癌組織を取り除けるか医師のサポートをすることで手術の成功率を高めることができます。

弊社は住友電工社とこのPDDに用いるレーザー診断装置の共同開発に着手しました。この装置を使用できる主な領域は下記の通りです。(製品化は2006年度を目標にしています)
脳腫瘍、乳ガン、肺がん、胃がん、喉頭がん、舌がん、大腸がん、皮膚がん

またPDDを発展させることで癌治療用PDT(フォト・ダイナミック・セラピー)にも使用できるレーザーシステムを開発していく予定です。



2006年6月期1Q実績 売上: 8,144百万円 営業利益: 554百万円



事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 1Q実績
連結合計	今期より連結	37,142	8,144

IXIの2005年10月～2006年3月における業績予想数値は、同社が平成17年11月4日に発表した平成18年3月期業績予想における予想数値をもとに算出された数値であり、2006年4～6月における業績予想数値は、同社が平成17年11月4日に発表した平成18年3月期連結業績予想における下期予想数値に2分の1を乗じて算出された数値に基づいております。

セキュリティ・ソリューション

時限くん(情報漏えい防止・高性能データ保護ソフトウェア)等の商品をはじめ、ネットワーク系セキュリティ関連が中心。他ソリューションにおける展開も多い。(物流、モバイル等)

ロジスティクス・ソリューション

大手家電メーカー、飲料メーカー等へ、物流ソリューション提供。
(最適化経路、WHM、RFID)



モバイル・ソリューション

自治体および関連企業向けに災害対策支援システムの提供。
(緊急通報、安否確認、LED等での案内表示)

関連ソリューションを危機管理産業展2005に出展(2005年10月19日～21日)



3. IRIグループの全体戦略

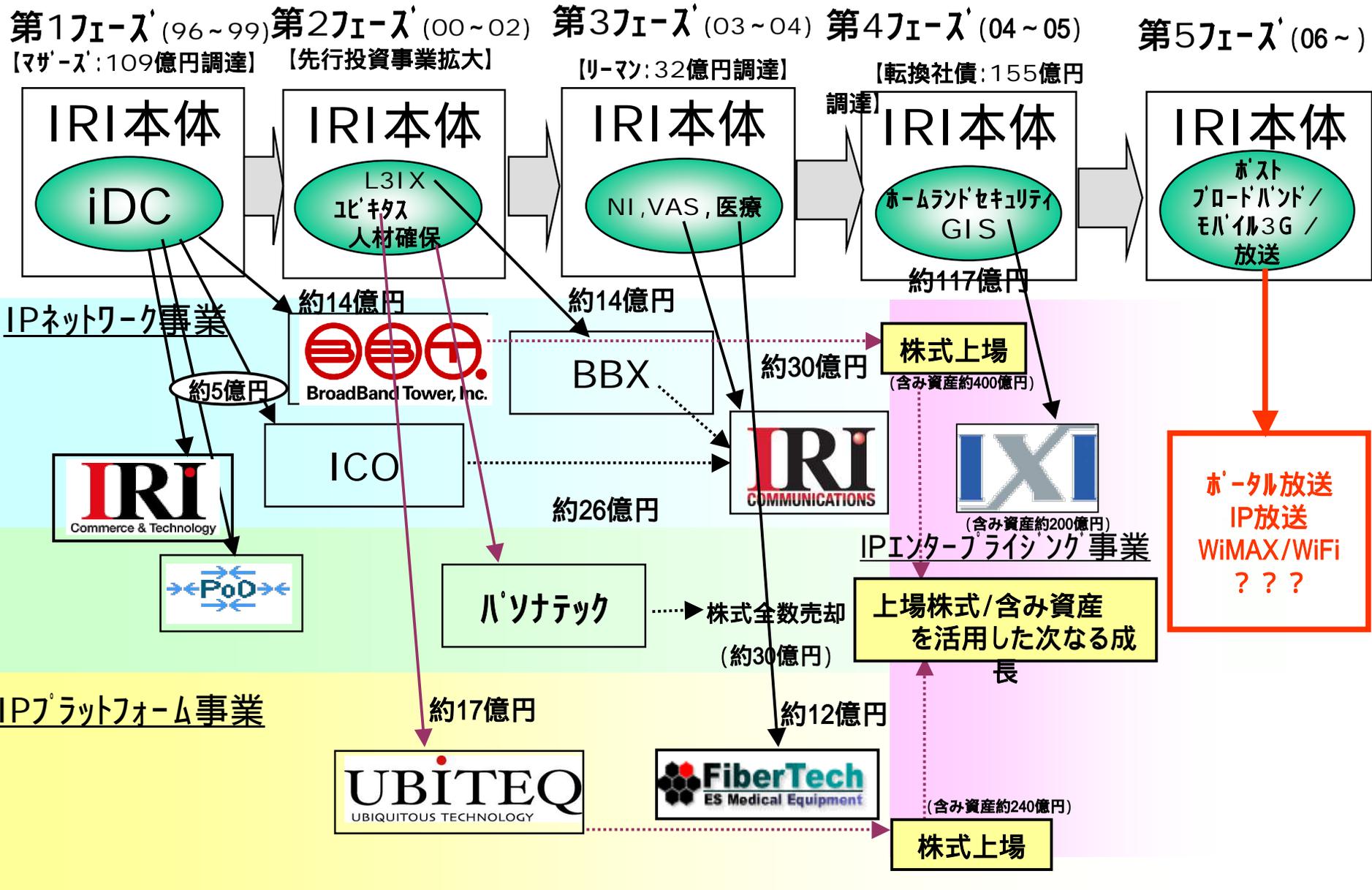


【Everything on IP! & IP on Everything !】

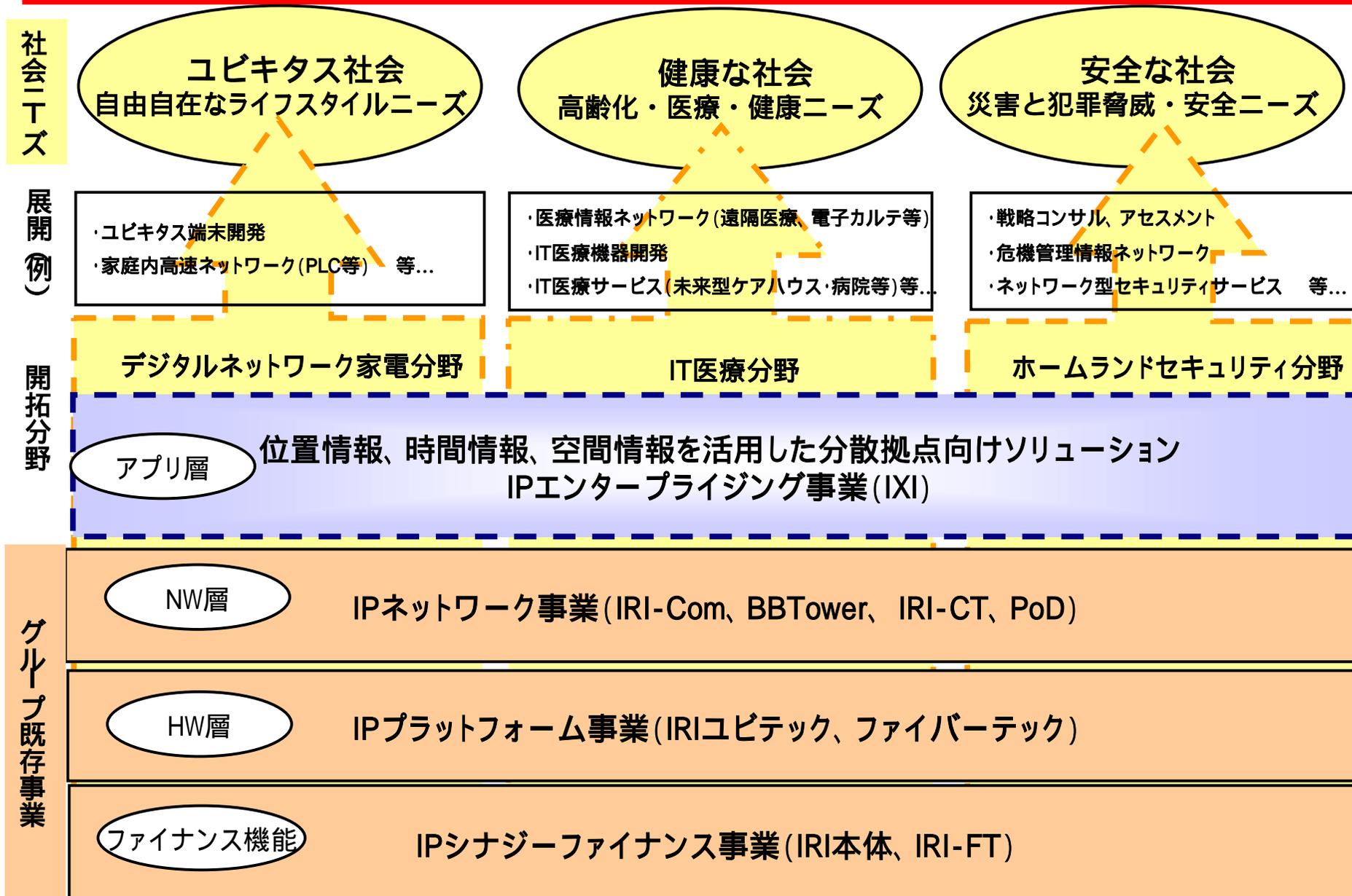
20世紀の半導体技術のように、21世紀の産業創出のもととなる技術革新は
IP (Internet Protocol) 技術である

あらゆる情報、文化、社会活動をIPネットワーク上に実現していく！

3-4.成長ヒストリー：本体による事業創造メカニズム

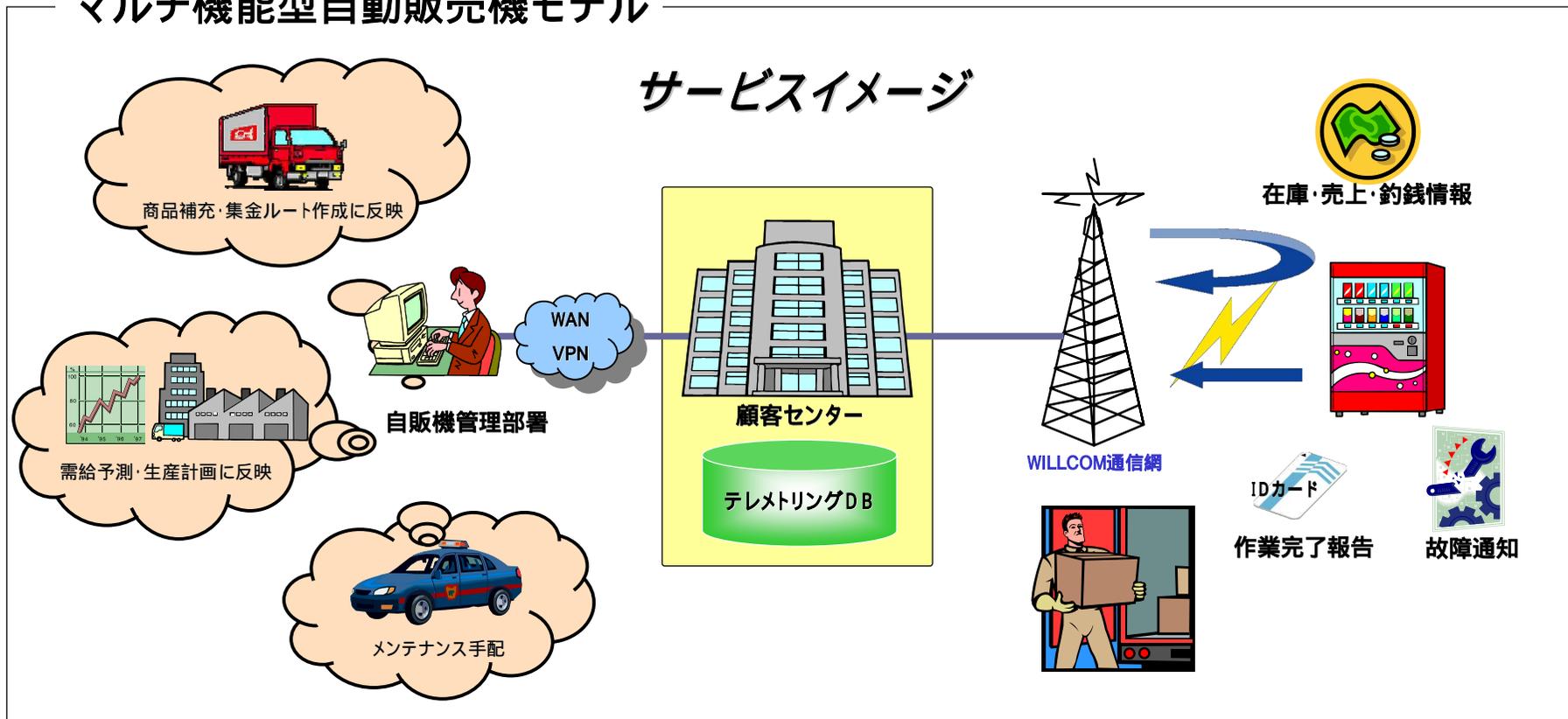


3-3.成長戦略:IRIグループの事業開拓領域



無線オンラインサービスでの協業

マルチ機能型自動販売機モデル



3-5. 新規事業取り組み状況 : Homeland Security事業

危機管理産業展2005 (Security & Safety Trade Expo) へ出展

・2005.10.19(水)から2005.10.21(金)の3日間に渡り東京ビッグサイトにて開催されました、日本初の危機管理関連産業を網羅した、新たなトレード・ショーである「危機管理産業展2005」へ、IRIグループとして出展・参加致しました。



< IRIグループの取り組み例 >

株式会社インターネット総合研究所



衛星と地上通信網融合によるデジタルディバイド解消
衛星を用いた全国均一な遠隔医療の実現のため、文部科学省科学技術振興調整費プログラムを推進

21世紀型ICTによる「防災技術・防災産業」の確立

ファイバテック株式会社



ビデオ喉頭鏡

・安全・確実な気管挿管を実現するビデオ喉頭鏡
・動画伝送によるメディカルコントロール / 遠隔医療

公共空間

オフィス空間

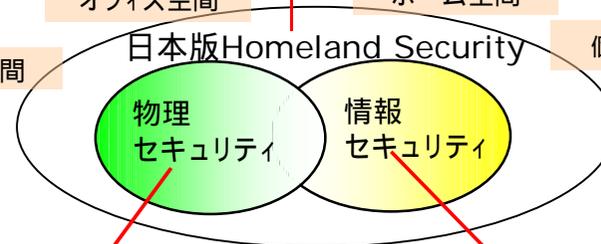
ホーム空間

株式会社IRIコミュニケーションズ



Anti-Abuse Mail Service

・ウィルス/スパムに対する最新セキュリティ機能を備えたメールサービスを低価格で提供



センサーネットワーク

セキュアードコンピューティング



株式会社IRIユビテック

ユビキタス研究所

・IRIグループの中核研究機関
・Homeland Securityの調査研究を推進

画像解析システム「IMS」

・ビデオ情報を分析、「不規則な活動」を自動的に認識し、警告を行うソフトウェア製品

株式会社アイ・エクス・アイ



ユビキタス防災コミュニケーション

・住民と自治体が一体となって取り組む防災コミュニティ

4th Eye

・PCからの情報漏洩防止ソリューション

時限くん

・指定時刻にPCからデータを自動的に削除

3 6. 展開: インターネットと放送の融合への主導

- 【1】 ポスト・ブロードバンド → IPによるトリプルプレイ
(インターネット接続/電話/TV)
- 【2】 ポスト・モバイル3G → WiMAX
- 【3】 ポスト・放送 → ポータル動画、Gyao



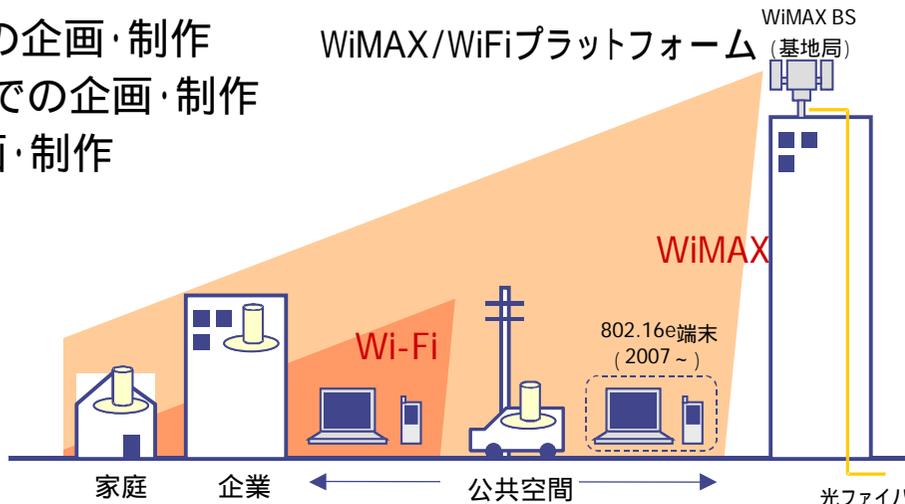
ブロードバンド配信

映像コンテンツの企画・制作
ヤフー(株)と共同での企画・制作
音楽番組の企画・制作



モバイル・ユビキタス

WiMAX/WiFiプラットフォーム (基地局)



IP放送プラットフォーム

